

令和3年度 京都大学一般選抜
出題意図等

国語（文系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般入試学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

文系

出題意図（問題一全体）

哲学的・実存的思索に裏打ちされた随筆の読解を通して、一つの経験から反省的に深められていく筆者の思索の行程を正確にたどり、文全体の趣旨を的確に理解する力、およびその理解を明確かつ適切な仕方で表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：友人の言葉が私にとって「忘れ得ぬ言葉」となった理由について、筆者の思考の動きを正確に理解し的確に表現することを求める。

問二：「罪のない」こと自体の罪という筆者の反省について、このような反省をもたらした経緯を正確に読み取り、その理路を明確に説明することを求める。

問三：自らが「世間知らず」であるという筆者の自覚の意味変化について、筆者の説明からその内容を正確に把握し、適切な言葉で表現することを求める。

問四：「生き身の人間の口から自分に語られた」言葉に筆者が見てとる特性を十分に把握した上で、その理解を筆者の経験との連関の中で十全に表現することを求める。

問五：本当の人間関係が「生きているとか死んでいるとかいう区別を越えた」ものだと言われる理由について、本文の思索を踏まえて十分に説明することを求める。

出題意図（問題二全体）

問題文は、昭和二十年（一九四五）とその翌年の出来事について十年経った時点から回想した随筆である。筆者の置かれた状況を把握した上で、情景描写や比喻表現を的確にとらえる能力、および読みとった内容を明晰な表現で叙述する能力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：「後日の語りぐさ」という傍線部の表現を踏まえ、「この小さい事件」について筆者がどのように捉えていたのかを簡潔にまとめることを求める。

問二：「カナリヤ」を含む比喻表現を正確に把握し、過不足なく説明する能力を問う。

問三：「当時」の指し示す状況と筆者の関係を踏まえた上で、「すだれ越し」の比喻表現を文脈に即して説明する能力を問う。

問四：筆者がなぜ「ウソのやうにしかおもはれないだらう」と表現したのか、その意図を読みとり、的確に説明することを求める。

問五：終戦の翌年に筆者が藤棚を目にした場面について、「すだれ越し」というキーワードを手がかりにして説明させ、本文全体の理解度を測る。

出題意図（問題三全体）

問題文は『栄花物語』の一節である。標準的なレベルの文章で記されているが、登場人物の人間関係がやや複雑であるため、古語と古典文法の正確な知識に基づいて、文脈や人物の心理を丁寧に読み取り、かつわかりやすく説明することを求める。

出題意図（個別問題）

- 問一： 基本的な古典語彙や文法・敬語法の知識に基づきつつ、目的語など省略されている言葉を適宜補って、的確に現代語訳する力を問う。
- 問二： この場面における二人の人物の関係性を理解した上で、傍線部における伊周の複雑な心情を、わかりやすく説明する力を問う。
- 問三： 傍線部が逆説的な言い回しであることを理解した上で、語り手がなぜこのように感じたのかを状況から判断し、的確に説明する力を問う。
- 問四： 指示語の内容を文脈から判断し、基本的な古語や助動詞の知識に基づいて、和歌を正確に現代語訳する力を問う。